



雪崩・地すべり 研究センターたより

季刊・第48号
2009・3月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・ 白馬八方尾根で発生した雪崩 ・ トピックス ・ 転出者挨拶

白馬八方尾根で発生した雪崩 (H21. 1. 14)



写真-1 雪崩発生斜面



写真-2 雪崩が発生した斜面

1月14日に、長野県白馬村八方尾根付近の雪崩観測地で比較的大規模な雪崩が発生しました。

写真-1は、深夜2時35分過ぎの高感度ビデオ映像です。標高の高いところは雲が厚く発生地点は見えませんが、下流で雪煙をあげながら脇の斜面を駆け上がるように流れ下る雪崩が撮影されました。この時の先端の速度は、時速約70kmと推定されます。

写真-2は、14日の午前中に白馬八方尾根スキー場で撮影した写真です。コース外の急斜面に、雪崩の発生点と思われる積雪が崩れた痕跡がはっきりと写っています。雪崩・地すべり研究センターでは、今後観測結果を分析するほか、近年の雪崩発生状況について比較分析を行っていく予定です。

トピックス

■ 富山県袖川災害調査

2月10日に、火山・土石流チームと合同で、1月31日に発生した富山県南砺市（旧平村）杉尾地区の土砂流による災害調査を実施しました。この災害は、国道156号の袖川橋付近が50mの区間にわたって土砂流により通行止めになったものです。

当センターからは、丸山、ハスバートル、鈴木が、袖川橋から袖川上流900mまでの区間を調査しました。調査の結果、袖川橋から上流約100～650mの区間に堆積していた河

岸や河床の土砂（平成16年7月28日に発生した災害により上流から流下し堆積したものと推定される）が降雨と融雪による増水により侵食され、袖川橋付近に流下・堆積したものと推定されました。



■第3回「地すべり防止施設点検学習会」

2月4～5日に、利根川水系砂防事務所、群馬県砂防課主催の「第3回地すべり防止施設点検学習会」が群馬県藤岡市で開催されました。この学習会は、関東甲信地区の国、都県の地すべり担当者が、地すべり防止施設の維持管理手法について学習し、意見交換を行う目的で開催されているものです。



4日の学習会では、当センターの丸山総括主任研究員が「地すべり防止施設の維持管理について」の講義を行いました。また、5日に譲原地すべりで行われた現地実習では、集水井や横ボーリングの内部の点検方法や排出水のpH、鉄分量の計測を行い、目詰り物質の付着のしやすさを判定する実習を行ないました。

■地すべり防止工事士会研修会

2月18日に、NPO群馬県地すべり防止工事士会による「技術研修講演会」が群馬県藤岡市で開催されました。この技術研修講演会は、平成20年度3回目の講演会で、群馬県内に在住する地すべり防止工事士約150名の参加を得て開催されました。



講演会では、石井所長が「災害現場から教えられたこと」と題して、近年の地すべり災害の事例紹介と当センターで開発している加熱式地下水検層法などについて紹介を行いました。また、群馬県砂防課の金田係長からは「群馬県の災害状況」について講演があり、近年の主な災害事例や、施設の維持管理のために行った調査点検結果について紹介がありました。

■斜面对策技術協会講演会

3月24日に、(社)斜面对策技術協会中部東海支部の「技術研修会」が名古屋市で開催されました。技術研修会は約80名の参加を得て開催され、当センターからも石井所長が参加し、「雪崩・地すべり研究センターの新技术開発」と題して、現在当センターで開発している加熱式地下水検層法と地すべりや雪崩



の危険度評価手法などについて紹介しました。

転出者挨拶

■交流研究員 鈴木聡樹

この度、私の交流研究員の任期が平成21年3月末日をもって終了しました。平成19年11月～平成21年3月の間の



1年5ヶ月にわたりお世話になりました。印象に残るのは、岩手・宮城内陸地震での調査で、地震直後から荒戸沢地すべりの南西側、末端付近、駒ノ湯の踏査を行ったことです。また、地震を引き金とする地すべりはどんどこで起こりやすいかや、新しい地下水調査法について皆様と共に議論できたことは大変刺激になりました。

最後になりますが、皆様のますますのご活躍・ご健勝を祈念します。

■非常勤職員 阿部洋子

3年間にわたり非常勤職員として勤務させていただきありがとうございました。皆様には、大変お世話になりました。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

■実習生 田中達也 (長岡技術科学大学)

実務訓練では、静的及び繰り返しリングせん断試験機を使用して土質強度の比較を行いました。実験では機械のトラブルや自身の勉強不足により予定どおりに行かない部分もありましたが、当センターでの土質実験を通じて、大学の講義では学べない様々なことを勉強させてもらうことができました。実務訓練の5ヶ月間、実習をさせて頂きありがとうございました。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載しておりますので、ご覧下さい。

発行：独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター
住所：〒944-0051 新潟県妙高市錦町2-6-8
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。